

普連士学園中学校 入試問題に関する Q&A

1. 国語

Q.漢字の「とめ」、「はね」、「はらい」は厳密でなければ間違いや減点になりますか？

「とめ」、「はね」、「はらい」が不正確であったり、文字としてのバランスが著しく悪い場合は、減点の対象になる場合があります。特に漢字の書き取り問題では、「とめ」、「はね」、「はらい」に注意してください。

Q.記述式解答の問題に部分点はありますか？

解答の要素ごとに部分点を設定しています。この場合、解答に必要なすべての要素がそろっていなくても点数が入ります。ただし、解答の文は句点(。)まで書き切って下さい(下の Q&A も参照)。また、誤字脱字や表現上の間違いは減点対象になります。

Q.記述式解答は文の途中で終わっていても部分点をもらえますか？

その場合、部分点は入りません。文は句点(。)まで書いてあって成立します。文の途中で終わっている場合は、その文の意味が確定しないので採点の対象になりません。

Q.言葉に関する問題に効果的な勉強法はありますか？

普段からなるべく多く本や新聞に触れて語彙を増やすことが大切ですが、短期的には言葉に関する市販のテキスト(もしくは塾の教材)一冊を一通り解くことをおすすめします。その時に間違えた問題をチェックしておき、2回目はそれらを重点的に覚えていくようにしましょう。

Q.説明文、物語文(文章題)に対して解き方のコツのようなものはありますか？

[説明文(評論)]

文章を読みながら筆者の主張や考えが述べられているところに線を引きましょう。大事なことは繰り返されるので、何度も同じような内容に線が引かれるはずです。それらの関係を見れば意味段落も取れるようになり、また設問の答えも線が引かれたところに多くの場合ヒントがあります。大事なところが一目瞭然になるので、読み返して答えの根拠を探す時間も短縮できます。

[物語文(小説)]

心情が分かる言葉、手がかりになる言葉、プラスイメージ・マイナスイメージの言葉には〇をつけましょう。心情の変化は分かりやすく説明されないことが多く、その分出題されやすいと言えます。自分の感覚ではなく、文章に沿って登場人物の心情をしっかりと追いかながら読み進めることが大切です。

2. 算 数

Q. 記述が苦手です。途中式を書かないで答えのみだと減点されますか？

解答用紙に「式」の欄がある問題は、途中式や考え方を書いていない場合には減点の対象となります。たとえ答えが合っていたとしても、途中式が誤っている場合は減点の対象です。ただし、記述式の問題を出題している理由は、整った解答が書けていないことに対して減点するためではなく、正しい考え方をしている解答に対してできるだけ加点するためです。模範解答のような答えではなくて大丈夫です。反対に正しい解き方をしていることが確認できれば、答えが間違っていても部分点が入ります。メモ書きのようなものや筆算なども、「式」の欄に書いてあれば加点の対象になります。

Q. 単位を書かないと減点されますか？

単位が重要な問題では減点します。単位をつけて解答することは、数をイメージする上で大切なので、日頃からぜひ習慣づけましょう。ただし、1日午後算数はあらかじめ答案用紙に単位が印字されているため、数字のみ記入する形になります。

Q. どうしたら 1 日・4 日午前の会話問題が解けるようになりますか？

会話問題には会話文自体にヒントがちりばめられており、内容を理解しながら読み進めていけば、だいぶ解きやすくなります。練習段階では解答時間を気にせず、親子で一緒にじっくり読み進めながら解いてみてください。問題形式に慣れることが大切なので、過去問題で何度も練習してみましょう。

Q. どういった分野がよく出題されますか？

基本的にまんべんなく出題していますが、特に出題している単元は「計算」、「規則性」、「特殊算」、「場合の数」、「図形」、「速さ」です。表面的にしか理解していないと間違えるような問題も出題しています。本質的に理解するために、日頃から問題を解く際になぜそうなるのかを意識するとよいでしょう。また、どうやって解いたかを人に説明することで、本当に理解できているか確認することができます。

Q. 算数が苦手ですが、残りの期間にどのような勉強をしたらよいですか？

まずは計算問題、一行文章題、定型問題といった定番問題を問題集などでよく復習しましょう。その際、各分野からまんべんなく出題している1日午後算数の過去問題を解いてもらうと、自分の弱点を洗い出すことができます。ただ公式を当てはめるだけでは間違ってしまう問題も出題しますので、解き方を丸暗記するのではなく、理解して解けるようにしましょう。また、各大問の最後の問題は難しめになっているため、その前の問題までを確実に取れるようにできるとよいでしょう。

Q. 4回の入試にはどのような特徴がありますか？

1日午後は50分で50問あるため、手際よく正確に解くことが求められます。すぐに解法が浮かばなければ、次の問題の進むのも手です。他の3回の中では、2日午後の問題がやや難しめです。1日・4日午前は最後の会話問題が特徴的。会話の流れにうまく乗る必要があります。よく読んで与えられた条件や考え方を追うようにしましょう。

Q.1 日午後算数入試では、どの位得点できれば合格出来ますか？

2021 年度は 62 点、2022 年度は 72 点、2023・2024 年度は 58 点が合格ラインでした。その年の志願者数・受験者数によって変動があるため、あくまで参考として下さい。

Q.帯分数に直さず、仮分数のままで解答してもよいでしょうか？

特別な指示がない限りは帯分数で答えて下さい。

3 . 社 会

Q.社会の用語を漢字ではなくひらがなで書いたら間違いや減点になりますか？

漢字で答えなければならない解答は、問題文に必ず指示があります。問題文に指示がなければ、ひらがなでも減点になることはありません。都道府県名や教科書レベルの人物名などは、漢字で書けるようにしておいてください。

Q.論述問題では、部分点はありますか？

問題にもよりますが、基本的に解答の要素ごとに採点していますので、完璧な解答でなくても部分点があります。ただし、文章として成り立っていることが必要ですので、日ごろから文としてまとめる練習をしましょう。

Q.時事問題は出題されますか？またいつ頃までが範囲になりますか？

全体的に多くはありませんが、数問出題されることがあります。出題する場合は受験年度の9月（小学校6年生の9月）までの内容から出題します。時事的なことを直接解答する以外にも、時事を題材とした問題が出題されることもありますので、日ごろからテレビや新聞などで社会の動きに关心をもちましょう。また、大手出版社や塾が発刊している時事ニュース集が十分な対策になります。

Q.1 日午前と 4 日午前の問題で、難易度や傾向の差はありますか？

ありません。どちらも同じ問題レベルになるよう作っています。

Q.過去問は解いておいた方がよいですか？

地理・歴史・公民分野が融合した問題になっていますが、過去問題を通してひとつひとつの知識を確認していくことは十分練習になります。まずは分野に偏りなく基本的な知識をおさえておきましょう。また、30 分という短い試験時間をどのように配分するかの練習にもなります。

4 . 理 科

Q.記述問題で、書くときの注意点はありますか？

因果関係の説明では原因と結果を、比較の説明では対象の違いを意識しましょう。計算式も解き方の説明になります。問

題文中のどの数値を用いたのか相手に伝わるように書きましょう。

Q. グラフを書く問題で、書く時の注意点はありますか？

以下の手順で書くことにより、正確なグラフが書けます。

1. 縦軸と横軸を決める。
2. 縦軸と横軸に数値をふる。
3. 縦軸と横軸に単位を書く。
4. 問題文で与えられた値をグラフに書く。
5. 縦軸と横軸の関係性がわかるように線を引く。

Q. 部分点が入る問題はありますか？

途中の計算式を書く問題や記述問題には、部分点があります。

Q. よく出題される分野はありますか？

本校では物理・化学・生物・地学の4分野からバランスよく出題するため、分野のかたよりはございません。

試験時間が30分と短いため、問題は自分の得意な分野から解き始めるとよいでしょう。

Q. 入試までの残りの期間にどのような勉強をしたらよいですか？

4分野からまんべんなく出題されるため、まずは苦手分野の基本問題を改めて解き直すとよいでしょう。また、これまでに受けた模試の復習も良い対策になると思います。